

2024年度 事業計画書

事業名

盲導犬事業 〈公1〉

社会適応推進事業 〈公2〉

管理部門 〈法人会計〉

自：2024年 4月 1日

至：2025年 3月31日

公益財団法人北海道盲導犬協会

札幌市南区南30条西8丁目1番1号

盲導犬事業 〈公益目的事業1〉

(2024年4月1日 ~ 2025年3月31日)

■ 盲導犬の育成・貸与事業

1. 盲導犬訓練・貸与に関すること

- 1) 視覚障がい者への盲導犬貸与目標を11頭とする。(最終マッチングの訓練犬は9頭の見込み)
- 2) 2025年度の盲導犬訓練基準認定目標を11頭とする。1次適性評価合致は25頭前後とし、合致犬に対して2次適性評価を実施する。23年度より導入した2次評価を行うことにより、稟性面の問題による訓練中のキャリアチェンジの頭数が減り、効率よく訓練を実施することができている。今年度も15頭前後の訓練犬を決定して効率よく訓練を行う。
- 3) 盲導犬ユーザーのサポート体制を安心・安全の観点から強化する。
 - ・盲導犬のハーネスの改良、犬具類の見直しを行う。
 - ・高齢ユーザーのフォローアップを定期化するなど充実を図る。
- 4) 訓練犬の日常管理を充実させる。
 - ・手入れ、運動、シャンプーなど管理面の充実を図り、ハズバンドアリートレーニングを早期から導入して扱いやすい犬を目指す。
- 5) 訓練士・指導員の養成を行う。

2. 繁殖に関すること

- 1) 2025年度に15頭前後の訓練犬が確保できるように出産頭数60~75頭(出産

件数15腹前後)を計画する。

- 2) 繁殖犬として新たに5～8頭(ラブラドル5～6頭、ゴールデン2頭)を確保して、繁殖犬の質の維持・向上に努める。
- 3) アジアガイドドッグスブリーディングネットワーク(略称:AGBN)のGD-Bartテストに取組み、交配計画の情報としていけるようデータ整理をする。
- 4) 繁殖犬飼育委託ボランティアに向けた年間繁殖計画の説明会を実施する。
- 5) 遺伝子病検査について全頭検査ができる体制を整える。
- 6) 出産や繁殖評価の流れについて整理する。
 - ・現在の盲導犬育成の年間サイクルでは、春頃の出産をメインに交配をしているが、出産を通年性とするシステムを提案する。
 - ・繁殖評価の流れを効率化できるよう整理して、実施する。
- 7) 繁殖担当者の養成を行う。

3. パピーウォーキングに関すること

- 1) 2025年度 訓練犬・繁殖犬適性評価対象となる子犬を50～55頭委託する。
- 2) パピーウォーカーを対象とした飼育講習会を実施する。
 - ・委託終了までの間に、講習会を5回、および家庭訪問を3～4回実施してパピーの飼育指導にあたる。
- 3) トイレトレーニングの強化をはかる。

4. ケネル・老犬ホームに関すること

- 1) 老犬飼育委託家庭への定期訪問を行い、高齢犬の飼育環境を整えるアドバイスを充実させる。また、老犬来所の機会に犬の健康状態を把握し個々に合

ったケアの充実を図る。

- 2) 引退犬飼育者向けの介護動画を作成する。
- 3) 引退繁殖犬及び現老犬飼育委託ボランティアに対し、老犬の受け入れ準備や介護に向けてなど各テーマに即した講習会を開催する。
- 4) 新規となる犬舎犬管理ボランティア体制を整える。

5. 研修に関すること

- 1) 外部研修の活用により、職員のスキルアップを図る。
 - ・ 全国盲導犬施設連合会加盟施設職員相互研修会の参加
 - ・ 視覚障害リハビリテーション基礎講習会の受講
 - ・ 視覚障害者生活訓練等指導者養成課程の受講

6. 犬具飼料等の頒布に関すること

- 1) 盲導犬ユーザー、飼育ボランティアの負担を軽減するため犬具・飼料を低価格で仕入れ頒布する。
- 2) 盲導犬ユーザー、視覚障がい者に歩行補助具・日常生活用具の情報提供と頒布により日常生活を支援する。

■ 普及啓発事業

1. 盲導犬の普及啓発に関すること

- 1) 視覚障害者向け盲導犬体験会を実施する。

実施方法 個別対応

実施場所 協会又は自宅周辺

- 2) 行政機関、視覚障がい者団体等と連携した盲導犬歩行体験、日常生活用具

展示会を実施する。

(企画提案先)

- ・視聴覚障がい者情報センター点字講習会
- ・北海道視覚支援学校
- ・各地域の当事者団体の総会、行事等
- ・行政機関との連携強化および情報提供

3) 施設や団体に対し盲導犬受入れの理解を図ることを目的とした講習会を実施する。

- ・疑似体験、介助方法を通して盲導犬受け入れ・接客セミナー実施
- ・北海道運輸局が主催するバリアフリー教室への協力

4) 教育機関、福祉事業者、自治体等が実施する盲導犬講習会に講師派遣を通じて、盲導犬と視覚障がい者の正しい知識と理解を深めることを目的とした講習会を実施する。

5) 関係団体、商業施設、支援企業等の協力を得て盲導犬啓発キャンペーン活動を実施する。

6) 協力者を対象として、2024ガイドドッグオープンデーを4月21日に開催する。

7) 個人を対象とした施設見学会を実施する。年9回開催し、1開催につき30名を定員として、参加者はホームページ・X (Twitter) で広く募集する。

8) 盲導犬の普及啓発目的のオリジナル商品を製作・頒布して、盲導犬育成事業に対する理解と募金への協力に繋げる。

- ・新商品3点の企画制作、販売の開始

9) 広報誌「北の盲導犬だより ミーナ」を年2回各20000部発行する。

■ 調査研究事業

1. 調査・研究に関すること

- 1) A G B Nが取り組む期待育種価算出プログラムの精度向上に協力する。

■ その他事業

1. 財源確保に関すること

- 1) サポート会員の新規会員目標は150名とする。また、サポート会員に対して計画的な継続支援依頼を行うとともに、法人会員、個人マンスリー会員の拡大に向けた取り組みを行う。

【入金件数】 個人会員2,000件 法人会員60件

- 2) 募金箱設置店への募金訪問回収と送金依頼を計画的に実施し財源確保を行う。また、新規設置目標は200件とする。その他、既存設置店の設置状況を随時確認し、適切な募金箱管理を行う。

【入金件数】

札幌市内訪問回収：2,800件 札幌市除く道内及び道外送金依頼：2,000件

- 3) 街頭等での募金活動を実施し、財源の確保、盲導犬の啓発、協力者の拡大を図る。

活動予定場所：IKEUCHI GATE

- ・街頭募金活動は、IKEUCHI GATEほか12回を予定する。

上半期：5/24金 5/25土 6/28金 6/29土 9/27金 9/28土 計6回

下半期：10/25金 10/26土 11/29金 11/30土 3/28金 3/29土 計6回

他に帯広9/8日

- 4) 継続支援ツールとして年表カレンダーの作成・協賛企業の募集・配布を行い、継続率向上に繋げる。

5) 遺贈寄付制度を促進する為、関係機関への働きかけを行い、遺贈寄付の周知啓発を図る。

2. 関連団体との協力連携に関すること

社会福祉法人日本盲人社会福祉施設協議会、認定NPO法人全国盲導犬施設連合会、北海道盲導犬ユーザーの会、その他各地域にある当協会盲導犬使用者の会の各事業に協力する。

3. その他

車両更新計画に基づき、訓練車両1台の民間助成金申請を行う。

車両：ワンボックスカー

[入替車両]

ハイゼット 平成23年2月登録 使用年数13年 R6.2月総走行距離89,698km

社会適応推進事業 〈公益目的事業2〉

(2024年4月1日 ~ 2025年3月31日)

1. 生活訓練の実施に関すること

- 1) 短期入所訓練を実施する。実施回数及び指導数は、10回、15～20名とする。
また、新規訓練希望者は5名を目標とする。また、ケース会議をすべての訓練において実施し、訓練達成度の確認及び評価と今後の計画を決定する。

開催日程予定

第1回 4/ 1～ 4/12、第2回 5/13～ 5/24、第3回 6/10～ 6/21

第4回 7/ 8～ 7/19、第5回 8/ 5～ 8/16、第6回 9/ 2～ 9/13

第7回 9/30～10/11、第8回 10/28～11/ 8、第9回 11/25～12/6

第10回 1/13～1/24

- 2) 通所及び訪問による指導を行う。指導数は月5ケースとする。また、ケース会議を3ヶ月毎に実施し、訓練生の状況把握と訓練方針の共有を行う。

※通所及び訪問による指導ケース数は、各受講者の訓練期間により変動するため、月単位で同時に受け入れ可能な訓練ケース数を示した。

2. 視覚障害リハビリテーションの普及啓発に関すること

- 1) 当協会の盲導犬事業、生活訓練事業を啓発するために、道内で開催している相談会をさらに充実させる。相談会は、従来の比較的大きな会場で多人数(15～30名)の参加者を対象に実施する形式に加え、小グループを対象として各地で実施する形式も検討する。
- 2) 道内の視覚障がい者・関係者の依頼に対応して、個別相談を実施する事に

より、当協会の盲導犬事業及び生活訓練事業の利用者の拡大に繋げる。

- 3) 盲導犬使用希望者、生活訓練受講希望者を顕在化するため、ロービジョンケアの集まりや視覚障がい者団体等の行事に参加し、盲導犬・生活訓練に関する情報提供を行う。また、団体等の要請に応じて開催・運営に協力する。

(参考)

○「ロービジョンケアの集まり」とは、視覚障がい当事者とその家族、歩行訓練士、視能訓練士などの専門職が自由に相談や意見交換を行う場で、札幌、旭川、帯広の3ヵ所で行われている。受障後間もない方の参加もありピアカウンセリングの場としての役割もある。

○本項での「視覚障がい者団体等」とは、札幌市視覚障害者福祉協会、北海道視覚障害者福祉連合会といった各地の当事者団体や札幌市視聴覚障がい者情報センター、視覚支援学校といった関係機関を指す。

- 4) 「第3回ロービジョンケア講習会」を北海道眼科医会と共同で開催（2024年5月11日予定）し、道内の視覚障がい当事者及び医療・福祉・教育等の関係者に視覚障害リハビリテーションを普及啓発する。

- 5) ロービジョンケアを実施する医療機関を中心に日常生活用具展示会及び相談会を継続して実施し、視覚障害リハビリテーションの普及啓発に取り組む。

- 6) 視覚障がい者の外出を支援し、地域との繋がりを深めるために、移動支援従事者や同行援護従事者向けのオンライン等を活用したフォローアップ研修の実施及び相談支援事業所や家族に対しての基礎研修や情報提供等のサポートを行う。

- 7) 生活訓練受講者に協会行事や訓練・日常生活用具等の情報提供を、Webサービス等も活用して実施し、生活訓練の再受講のきっかけづくりを行う。

管理部門 <法人会計>

(2024年4月1日 ~ 2025年3月31日)

1. 理事会・評議員会・三役会により、効果的に法人業務の意思決定等を行う。

- 1) 理事会は、年3回を予定する。
- 2) 評議員会は、年2回を予定する。
- 3) 三役会、経営会議は毎月開催する。

2. 施設整備を段階的に進める。

- 1) 訓練棟及び本棟の空調設備設置工事
- 2) 訓練棟下方放出型自動消火装置の更新工事
- 3) 訓練棟及び本棟の照明一部の更新工事
- 4) 本棟給湯ボイラー更新工事